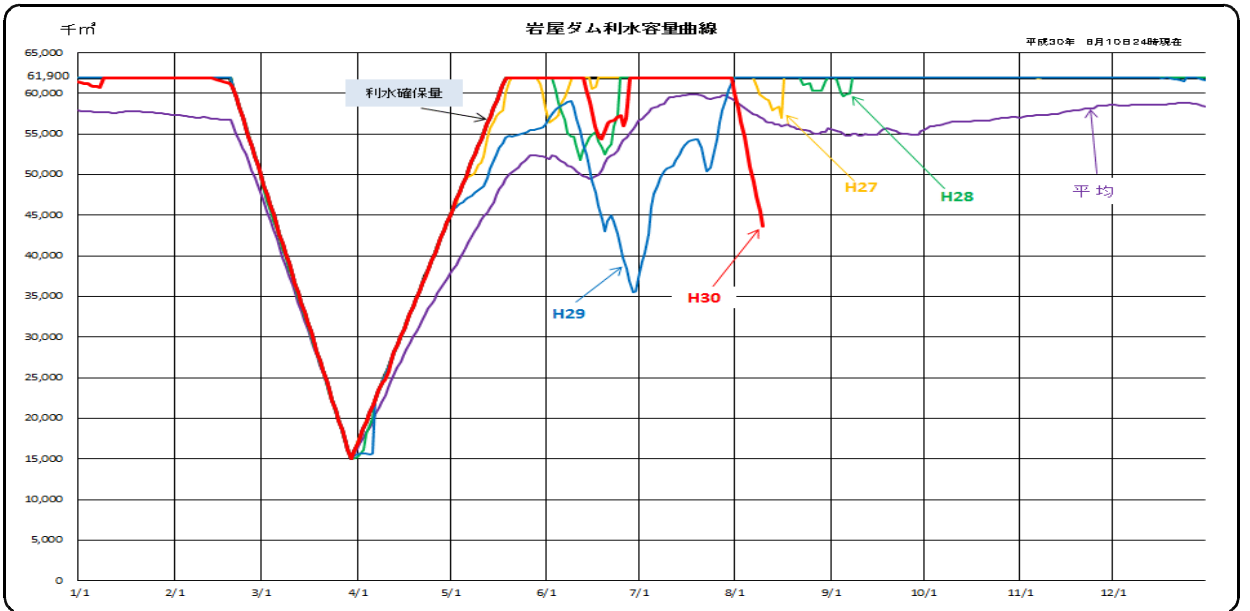




岩屋ダム利水貯水量 4,367万トン (貯水率70.5%)
農業用水取水量 2,596万トン (取水率61.9%) (ともに8月10日現在)

東海地方の梅雨明けは平年に比べ12日、昨年より6日早い7月9日でした。岩屋ダムの7月降雨量は平年を大幅に上回る状況（平年比157%）で、利水貯水率も100%で推移しました。これは7月3日以降に西日本から東海にかけて集中した豪雨が総雨量を押し上げたものとみられます。この地域でも8日未明に関市上之保で津保川が氾濫し、多くの住宅や店が浸水被害に遭われました。連日、復旧作業が続けられていますが、8月5日にその津保川で、アユの網漁が解禁となりました。復旧の最中であって朗報を得た気持ちですね。それにしても梅雨明け後の異常な暑さにほとんど参りません。日本列島は記録的な暑さに見舞われており、気温は内陸部を中心に最高気温35度以上の猛暑日になる日が多く最低気温も25度前後の日が続く、寝苦しい日が多くなっています。体調の管理や食品の管理には十分な注意・警戒が必要です。

水源地域では8月9日以降、4週間近くまとまった降雨が観測されておらず、木曾川上下流の新規用水は岩屋ダムに全量依存状態となりました。この段階で岩屋ダムの利水貯水率が70%程度となったことから、8月10日に水源状況説明会が木曾川用水総合管理所にて開催され、今後の気象や木曾川用水の水源状況及び今後のスケジュール



金子委員長のもと管理配水委員会を開催 (8/15)

等の説明を受けました。その後、12日、13日の降雨で利水貯水率も67%台から70%台にまで回復し、15日0時現在、4,489万トンで72.5%と河川流況が改善・回復してきていますが、まだまだ予断を許さない状況が続いています。こうしたことから、連合では15日に管理配水委員会を開き、今後、河川流況悪化に伴い開催される木曾川用水節水対策協議会準備会の協議結果に従い節水対策を講じること、岩屋ダムの利水貯水率が50%を割った日から農水にあっては10%の節水カットを行うこと、河川・ため池等の地区内水源を最優先に利用し、掛け流しなどせず適切な用水管理を行うよう周知徹底を図ること等の節水対策事項を決定しました。

一方、農業用水取水量は、8月10日現在、2,596万トン（取水率61.9%）で、過去3か年の平均取水量より224万トン程多くなっています。7月初旬の豪雨以降、ほとんど降雨がなかったことが起因をしているようです。

☆☆ 木曾川右岸緊急改築事業の推進を要望 ☆☆

平成27年度に事業採択を受けた「木曾川右岸緊急改築事業」は、木曾川用水上流部の農業用水や都市用水の安定的供給のため、老朽化の著しいPC管の改築及びトンネルの背面空洞充填工事を行うもので、平成32年度までの6年間の工期で進捗が図られています。今事業は機能診断により管体劣化が認められるPC管区間約6.6kmと、背面空洞を有するトンネル約9.3kmについて、緊急的に改築事業を行うことから、平成31年度においても計画的な事業の推進と早期効果発現のために必要な予算（平成27年度は3億円、平成28年度は12億円、平成29年度は11億円、平成30年度は11億円）を確保できるよう主務省等の関係機関に要求するものであります。伊藤連合理事長はじめ員外理事（各単区理事長）一丸となって、農林水産省、水資源機構、地元選出国會議員、県等に強く要望を行いました。



河合岐阜県副知事に要望書を提出 (7/17)



県土連にて大野専務理事に藤原会長宛の要望書を提出 (7/17)



渡辺水資源機構中部支社支社長に要望書を提出 (7/20)



幸田東海農政局長に要望書を提出 (7/20)



金尾水資源機構理事長に要望書を提出 (7/24)



要望書を受け取る渡辺猛之参議院議員 (7/24)



要望書を受け取る金子俊平衆議院議員 (7/24)



要望書を受け取る今井雅人衆議院議員 (7/24)